



学校教育目標

自ら学ぶ子

「学び続ける子」「共に生きる子」「健やかな子」「浦島の子」「未来を創る子」

2月号 令和6年1月31日



学校ホームページへ

ふくこうちょう かわまた ひろゆき
副校長 川又 宏之

「ごきげん」でいるために

「おはようございます！」と門の前で元気な声であいさつする2年生。「ぜんぶ凍っていたよ。」と教材池に氷が張っていることを教えてくれる3年生。授業を見ていると、「これが解きやすいよ。」と面積の求め方を教えてくれる4年生。給食室前でスケートをするかのように足を動かしていた私を見て笑っていた5年生。これらは1月の出来事です。その様子を見ていると、笑顔で楽しそう。いってみれば「ごきげん」です。

子どもたちは自分の気持ちにとっても素直です。楽しいと感じたことに笑顔や歓声で返してくれます。授業が楽しいと感じたときは、疑問に思ったことを人に聞いたり自分で調べたりします。自ら学んだとき、新しい発見をしたとき子どもたちは「ごきげん」です。

大人もごきげんなときは笑顔です。家族と楽しく過ごしたとき、仕事がうまく進んだとき、趣味に没頭しているときなどごきげんになります。教師にとっては授業がそれにあたります。子どもたちが楽しそうに学び、理解が進み、技能が習得されたときにはごきげんになります。大人も子どももごきげんなときは、周りにもハッピーな気持ちになるのです。

でも常にごきげんなわけではありません。体調が悪いときは表情が暗くなり、うまくいかないことがあると気持ちが落ち込みます。いやな気持ちがあると不機嫌となって周りの人に伝わります。周りにもハッピーではいられなくなります。これは悪い流れです。

自分の周りでも起こります。仕事を終えて遅く家についたとき、子どもは使った食器を置いたまま。お米を炊くのに食器洗いかから始めなければならない状況に強い口調で注意しました。子どもは慌てて洗いましたが、明らかに不機嫌そうです。お互いいやな気持ちになるなら違う言い方をすればよかったですと反省しますが、後悔先に立たず。こんな失敗は何度もあります。

周りの人を不機嫌にせず、「ごきげん」でいられるようにするにはどうすればよいでしょう。それは、自分が「ごきげん」でいることだと考えています。そのためによく寝てよく食べることはもちろん、ひいきのチームを応援する、好きな音楽を聴く、お風呂にゆっくり入るなど、自分の時間をもつことが必要です。なかなか時間がとれないという方もいるはずですが、1週間に1時間でも時間を見つけて、自分の時間をつくってみてください。私は「ごきげん」であるために「体を動かす」「よい食事をする」「よい仕事をする」を心がけています。

一人でも多くの方が「ごきげん」でいられれば、より快適な生活ができるのではないのでしょうか。まずは、自分から「ごきげん」でいられるように取り組んでいきませんか。